
赤潮情報

鹿児島県水産技術開発センター
平成17年7月6日

八代海 No.2

[1] 7月5日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

今回の調査では、全調査点で着色域は確認されませんでした。

前回調査(6/21)と同様に全体的にキートセロス属が多く、その他のプランクトンの数、種類はともに少ない状態でした。

しかし、有害種であるシャトネラ属(シャトネラ マリーナ, シャトネラ アンティーカ)が脇崎沖、伊唐島沖、獅子島東部(鉾崎沖)、水俣沖など比較的広い範囲で最高細胞数2cells/ml確認されたほか、コックロディニウム ポリクイコイデスが獅子島東部(鉾崎沖)で4cells/ml確認されました。

また、ヘテロシグマ アカシオが米ノ津沖、水俣沖で最高4cells/ml確認されました。

(2) 海況

表層水温は八代海全域で22.1~23.8℃で平年同時期より低め、塩分は32.7~33.4で平年同時期より高め、透明度は平年同時期より高めとなっています。

水温：平均 23.0℃ (26.1℃)

塩分：平均 33.2 (30.8)

透明度：平均 10.0m (8.1m)

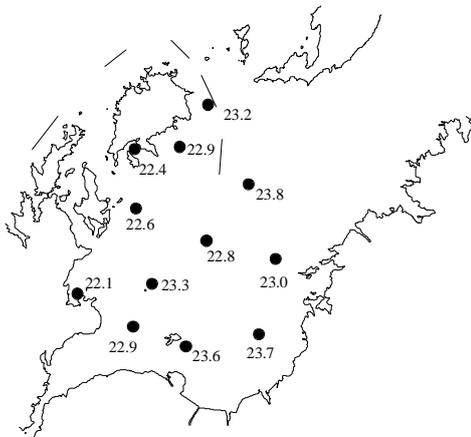
()はH元~H16年7月の平均値(同平年値)

[2] 今後の赤潮発生の予想

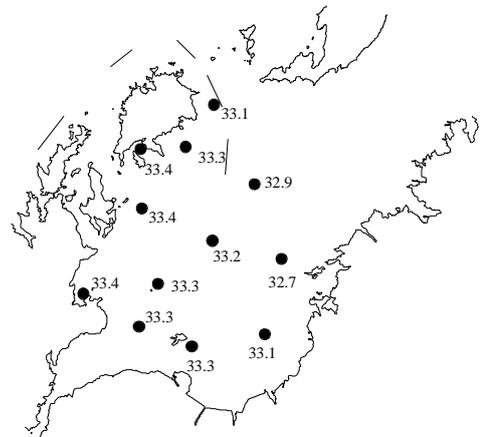
現在の水温は、おおよそシャトネラ マリーナ, シャトネラ アンティーカの増殖適水温(23~26℃)にあります。確認された細胞数はわずかでありましたが、降雨により塩分濃度が下がれば、比較的低塩分を好むシャトネラ属が増加することが考えられます。

また、コックロディニウム ポリクイコイデスが確認されましたが、本種は高温(27~28℃)・高塩分(32~33)を好むことが知られています。雨があまり降らず塩分が高い状態が続く、水温が上昇すれば、本種が増加することが考えられます。

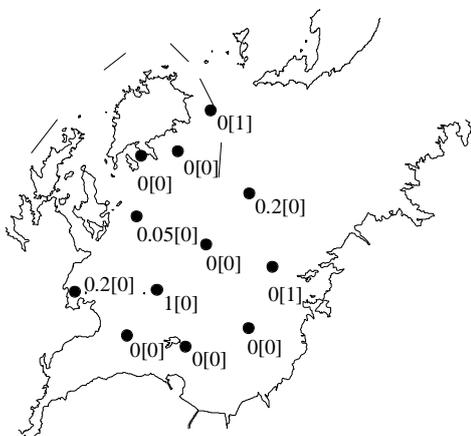
有害種の出現海域付近の養殖場では、今後の水温動向や雨の降り方等にも注意を払いながら、水の色や魚の状態等に十分に注意を払うとともに、当面検鏡によるプランクトンの監視が必要です。



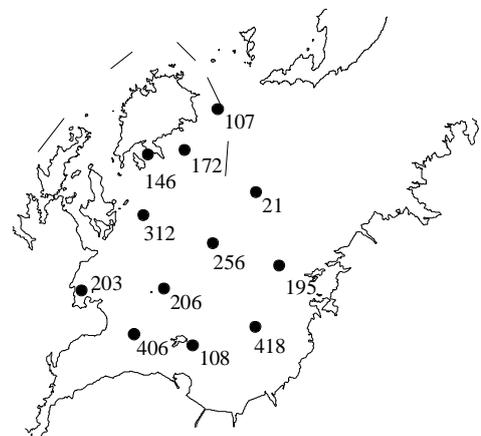
表層水温 (°C)



表層塩分



シャトネラ属表層細胞数 (cells/ml) []内は10m層



キートセロス属細胞数 (cells/ml)

赤潮情報(携帯用) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑(PC用) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>